



「地域やまちづくりへのココロ」

仙台駅東口商工事業協同組合理事
みやぎの区民協議会理事 高橋 正樹

生花店を経営してこの仙台駅東口で創業 150 年を超えました。この 150 年は駅東口の地域に密着し、地域と一緒に変遷してきた歴史でもあります。私が子どもの頃、約 40 年前の東口は開発途上で日々地域の風景が変わっていく中にあり、私の感覚としては常に変化することが当たり前で、それに対する抵抗感はほぼ無いといってもいいと思います。そんな子ども時代から東口を見続けて大人になり、家業を引き継いで改めて地域を見直してみますと、商売は人と地域によって成り立っていることが大事という基本を再確認することはわかりました。変化する地域同様にお客様もまた変わります。法人・個人に関わらずお客様もまた時代と共に変遷し、当店も時代と共に商売のスタイルを変えてきました。いわゆる老舗になった当店としても「常に変化を求め受け入れる」という面ではチャレンジの連続で、一般的な老舗のイメージからは最もかけ離れた印象かも知れません。これらの変化に向かう姿勢というか、常に持つべき感覚を殊更意識せずとも、この駅東口の雰囲気は独特だと捉えております。常に新しい人や物事が入ってくる場所であり、それでいて歴史的な寺社仏閣などが残り、その双方で何かと話題作りには事欠かないネタや可能性があります。

とはいえ、私も地域を強く意識して活動の手伝いをしようと意識したのはずっと後の事です。20 代前半の頃はボンヤリと大切なんだろう程度で可能な範囲で地域の異業種交流の場に入ったりさせて頂き、特別に意識した事もないまま 10 年が過ぎた頃から、まるで突然のように様々なお誘いやチャンスや出会いが巡ってくるようになりました。「そこにいる」事の大事さ、継続の大事さを痛感したのはこの時でした。ちょうど楽天イーグルスがやってきた前後の頃、まさに長男が生まれ育児や家庭を考えることが増えてきた時から、妻も含めて育児サークルや地域の活動に助けられました。特に妻は結婚するまで仙台に住むことすら無

かったのが、現在では積極的に東口地域の活動に参加しております。

私には 3 人の子どもがおり、その 3 人が榴岡小学校を卒業するまで 10 年以上お世話になりました。榴岡児童館にも同じだけお世話になっていきます。この中でも人間関係や地域との繋がりは自然に出来上がります。いえ、自然というよりは受け入れてくれたというべきでしょうか。古い街のようで新しい人々が流入して常に変化する、そういう素地があって妻は受け入れて貰えているのだと感じております。

この東口で代々家業をして 150 年余り、逆に古くから東口にいる人がほぼ居なくなったのは寂しさもあります。寺社仏閣を含めても東口に 100 年以上住んでいる世帯は数えるほどですので、風景も相まって新しい街という印象が強いですね。

ここで成長していく子ども達について真剣に考えるようになったのも、自分の子どもがお世話になっているからでしょう。小中学校の職場体験の受け入れ、すずめ踊り、みやぎの・まつり等のお手伝いをしておりますが、地域の子供達との関わりは格別なものがあります。将来的にこの地域に残り根付く人たちが増えていくことを願うばかりです。

